

令和3年度保護林モニタリング調査結果（一覧表）

【資料2-1】

保護林 【管轄森林管理署】	シカ被害レベル		調査結果概要	保護・管理の方針案	モニタリング 間隔案 【5年の場合の 理由】
	前回調査	R3年度			
1 あまみぐんとう 奄美群島 森林生態系保護地域 【鹿児島署】	—	—	<p>【奄美大島】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護対象樹種は原生的な天然林（亜熱帯性常緑広葉樹林）で、林冠層にスダジイ、イジュ、エゴノキ、オキナワウラジロガシ等の生育が確認され、後継個体も確認された。</li> <li>・低木層はタイミンタチバナ、イスノキ、スダジイ、ミヤマハシカンボク、サクラツツジ等が優占。</li> <li>・草本層はヨゴレイタチシダ、キノポリシダ、ヒリュウシダ、アマミシダ等のシダ植物が繁茂。</li> <li>・自動撮影カメラによる確認種はアマミノクロウサギ、リュウキュウイノシシ、ノヤギの3種が大半を占めた。</li> <li>・鳥類調査では希少種としてアマミヤマシギ、アカヒゲ、オーストンオオアカゲラが確認された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成27年度と比較し、植被率や種構成等に大きな変化は認められないことから現状は維持されていると考えられ、引き続きモニタリングを継続することが適当である。</li> <li>・外来種については、関係機関と連携し相互の情報共有を図る。</li> <li>・盗掘・密猟等対策が重要となっていることから、関係機関、エコツアーガイド等と連携し、監視活動の強化やモニタリング、条例等に基づく適切な対策に取り組む。</li> </ul>	5年 【世界遺産登録 地域のため】
	—	—	<p>【徳之島】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護対象樹種は原生的な天然林（亜熱帯性常緑広葉樹林）で、林冠層にスダジイ、イジュ、エゴノキ、オキナワウラジロガシ等の生育が確認され、後継個体も確認された。</li> <li>・低木層はシマミサオノキ、ポチョウジ、イスノキ、タイミンタチバナ等が優占。</li> <li>・草本層はヨゴレイタチシダ、キノポリシダ、コウモリシダ等のシダ植物が繁茂。</li> <li>・自動撮影カメラではアマミノクロウサギ、リュウキュウイノシシ、ノイヌの3種が確認された。</li> <li>・鳥類調査では希少種としてアマミヤマシギ、アカヒゲが確認された。</li> </ul>		
2 いなおだけしゅうへん 稲尾岳周辺 森林生態系保護地域 【大隅署】	【H28】 0	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護対象樹種はスダジイ、イスノキ、モミ、アカガシ等の原生的な天然林であり、健全に生育していた。</li> <li>・保護対象樹種や林冠構成種の後継個体として、アカガシ、イスノキ、モミ、ウラジロガシ等が確認された。</li> <li>・低木層、草本層ともに種構成に大幅な変化はなく、シカの食害の影響は生じていなかった。</li> <li>・1つのプロットでカシノナガキクイムシによる被害木が1本が確認された。</li> <li>・自動撮影カメラではニホンザル、ノウサギ、タヌキ等が確認され、シカは確認されなかった。</li> <li>・鳥類調査では希少種のコシジロヤマドリが確認された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カシノナガキクイムシの被害について引き続き発生状況を注視していくこととし、今後、カシノナガキクイムシの被害により樹勢が衰え、危険木の発生が予見される場合には、伐倒駆除など必要な対策を行う。</li> <li>・当保護林を含む周辺地域ではシカの生息が確認されていることから、引き続き、シカの侵入状況の確認のほか保護林の異常の有無等状況把握に努めるとともに、モニタリング調査を継続する。</li> <li>・シカによる被害状況に応じ、シカ捕獲、植生保護柵設置等の対策を検討する。</li> </ul>	5年 【その他、短期 間で大きな変化 が想定される】

保護林 【管轄森林管理署】		シカ被害レベル		調査結果概要	保護・管理の方針案	モニタリング 間隔案 【5年の場合の 理由】
		前回調査	R3年度			
3	ふげんだけ 普賢岳 生物群集保護林 【長崎署】	【H26】 0	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護対象樹種はイタヤカエデ、ノリウツギ、ナナカマド、ミヤマキリシマ等の広葉樹林であり、ノリウツギ、ナナカマド、ミヤマキリシマは確認された。</li> <li>・保護対象樹種や林冠構成種の後継個体として、モミ、コハウチワカエデ、イヌツゲ、コミネカエデが確認された。</li> <li>・低木層はノリウツギやヒメクロモジが優占。</li> <li>・大雨による斜面崩壊や登山道の土壌流出が確認された。</li> <li>・自動撮影カメラを3ヶ月以上設置したが、シカは確認されなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シカの侵入状況の確認のほか、保護林の異常の有無等状況把握に努めるとともに、モニタリング調査を継続する。</li> </ul>	10年
4	おおもりだけ 大森岳 生物群集保護林 【宮崎署】	【H28】 2	3 (3~4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護対象樹種のアカガシやウラジロガシが確認され、生育は健全であったが、シカによる食害のため後継個体は確認されなかった。</li> <li>・低木層及び草本層はシカの忌避植物が優占しており、下層植生の回復は見られなかった。</li> <li>・自動撮影カメラによる哺乳類の確認種はシカが大半を占め、ほかにはタヌキ、アナグマ、テン、イノシシが確認された。</li> <li>・鳥類調査では希少種として、クマタカ、ジュウイチ、ツツドリ、アカショウビン、キビタキ、オオルリ等が確認された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既設の植生保護柵の設置箇所においては定期的な保守点検を行う。</li> <li>・下層植生被害を抑制することなどを目的に、シカ捕獲、植生保護柵の設置等による対策を継続する。</li> <li>・引き続きモニタリングを継続する。</li> </ul>	5年 【鳥獣・病虫害 被害が顕著にあ る】
5	くせんぶやま 九千部山ブナ等 希少個体群保護林 【佐賀署】	【H26】 0	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護対象樹種はシラキーブナ群集、ミヤマシキミーアカガシ群集、イヌシデークマンシデ群落等であり、群落構成種のブナ、アカガシ、イヌシデ等は健全に生育していたが、後継個体はほとんど確認されなかった。</li> <li>・低木層には小径木のシロダモやアオキが繁茂していた。</li> <li>・自動撮影カメラを3ヶ月以上設置したが、シカは確認されなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シカの侵入状況の確認のほか、保護林の異常の有無等状況把握に努めるとともに、モニタリング調査を継続する。</li> </ul>	10年
6	おばま 小浜クスノキ 希少個体群保護林 【長崎署】	【H26】 0	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護対象樹種はクスノキであり、本種の生育は健全であった。</li> <li>・保護対象樹種の後継個体は確認されなかったが、林冠構成種のタブノキ、ヤブニッケイの後継個体が確認された。</li> <li>・低木層はアオキとヤブツバキが優占。</li> <li>・自動撮影カメラを3ヶ月設置したが、シカは確認されなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シカの侵入状況の確認のほか、保護林の異常の有無等状況把握に努めるとともに、モニタリング調査を継続する。</li> </ul>	10年
7	のだけ 野岳イヌツゲ 希少個体群保護林 【長崎署】	【H26】 0	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護対象樹種はイヌツゲ群落であり、群落は確認できなかったが1プロットで複数本の健全な生育が確認された。</li> <li>・保護対象樹種の後継個体も確認された。</li> <li>・低木層の被植率は高く、シロドウダンとイヌシデが優占。</li> <li>・草本層の被植率も高く、ウンゼンザサが林床を被覆。</li> <li>・自動撮影カメラを3ヶ月以上設置したが、シカは確認されなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シカの侵入状況の確認のほか、保護林の異常の有無等状況把握に努めるとともに、モニタリング調査を継続する。</li> </ul>	10年
8	ぼろいしやま 双石山タブノキ等遺伝資源 希少個体群保護林 【宮崎署】	【H23】 0	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護対象樹種はタブノキとツブラジイであり、タブノキは全4プロットで確認されたが、ツブラジイは確認できなかった。</li> <li>・保護対象樹種の後継個体はほとんど確認できなかった。</li> <li>・低木層はホソバタブ、アオキ、ヤブツバキ等の小径木が優占。</li> <li>・希少種としてカンアオイ属が確認された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シカの侵入状況の確認のほか、保護林の異常の有無等状況把握に努めるとともに、モニタリング調査を継続する。</li> </ul>	10年

保護林 【管轄森林管理署】	シカ被害レベル		調査結果概要	保護・管理の方針案	モニタリング 間隔案 【5年の場合の 理由】
	前回調査	R3年度			
9 くすみ 楠見イチイガシ遺伝資源 希少個体群保護林 【宮崎署】	【H23】 2	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護対象樹種のイチイガシの生育は健全であり、後継個体も全2プロットとも確認された。</li> <li>・低木層はクロキやイヌガシ等の小径木が優占するものの、アオキの生育が確認されず、種構成に変化が生じていた。</li> <li>・常緑広葉樹林のためか草本層の被植率は低かった。</li> <li>・希少種としてエビネ属、シュスラン属が確認された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下層植生被害を抑制することなどを目的に、シカ捕獲、植生保護柵の設置等による対策を検討する。</li> <li>・引き続きモニタリングを継続する。</li> </ul>	5年 【鳥獣・病害虫被害が顕著にある】
10 あおいだけ 青井岳カヤ等遺伝資源 希少個体群保護林 【都城支署】	【H23】 0	1 (0~1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護対象樹種であるカヤ大径木は健全に生育していた。</li> <li>・カヤの後継個体は確認できなかったが、林冠構成種の後継個体としてタブノキ、ヤマビワ、スダジイが確認された。</li> <li>・低木層はホンバタブ、アオキが優占し、草本層の被植率はやや高かった。</li> <li>・一方のプロットではウラジロガシ、もう一方のプロットではマテバシイにカシノナガキクイムシの被害が確認された。</li> <li>・外来種のアブラギリの侵入が確認された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カシノナガキクイムシの被害について引き続き発生状況を注視していくこととし、今後、カシノナガキクイムシの被害により樹勢が衰え、危険木の発生が予見される場合には、伐倒駆除など必要な対策を行う。</li> <li>・また、アブラギリの侵入拡大にも注視していくこととする。</li> <li>・シカによる被害状況やカヤ大径木の生育状況を確認することなどを目的に、宮崎県の指定管理鳥獣捕獲等事業による個体数管理の成果などを注視しつつ、モニタリング調査を継続する。</li> </ul>	5年 【鳥獣・病害虫被害が顕著にある】
11 しか 四家イチイガシ 希少個体群保護林 【都城支署】	【H23】 0	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護対象樹種のイチイガシは健全に生育していたが、後継個体は確認できなかった。</li> <li>・低木層はホンバタブやバリバリノキ等の小径木が優占。</li> <li>・草本層は常緑性のシダ植物が優占。</li> <li>・希少種としてガンゼキラン、エビネ属、シュスラン属等が確認された。</li> <li>・1個体分のシカの糞が確認されたが、植生被害はなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シカの侵入状況の確認のほか、保護林の異常の有無等状況把握に努めるとともに、モニタリング調査を継続する。</li> </ul>	10年
12 あまみぐんとう 奄美群島アマミノクロウサギ等 希少個体群保護林 【鹿児島署】	—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護対象の動物種はアマミノクロウサギ、トゲネズミ類であり、アマミノクロウサギは自動撮影カメラにより生息が確認された。</li> <li>・保護対象樹種はイスノキ、イジュ、スダジイ等で、後継個体も確認された。</li> <li>・低木層はタイミンタチバナやシシアクチ等が優占し、草本層はシダ類やタイミンタチバナやイスノキといった木本種が確認された。</li> <li>・スダジイを中心に枯損が確認されたことから、カシノナガキクイムシによる被害が生じている可能性がある。</li> <li>・シカは確認されず、ノネコ、ノヤギが確認された。</li> <li>・鳥類調査では希少種としてアマミヤマシギ、アカヒゲ、オーストンオオアカゲラが確認された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成27年度と比較し、植生率や種構成等に大きな変化は認められないことから現状は維持されていると考えられ、引き続きモニタリングを継続することが適当である。</li> <li>・今後、カシノナガキクイムシの被害により樹勢が衰え、危険木の発生が予見される場合には、伐倒駆除など必要な対策を行う。</li> <li>・外来種については、関係機関と連携し相互の情報共有を図る。</li> <li>・動植物の保護、盗掘・密猟等については、巡視活動の強化等を図る。</li> </ul>	5年 【世界遺産登録地域のため】